

＝ エール ＝

大型連休、本来なら心地よい風が吹くこの季節は、公園やレジャー施設などで、のんびり・楽しく家族や友達と過ごす人が多いはずだが、残念ながら、あらゆる方面で厳しい状況が続いている。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた外出の自粛、時差出勤や在宅勤務、そして、休業要請に至っては各産業や中小企業への影響をはじめ、小規模事業者の死活問題との切実な声もある。そのもとで国と地方自治体の中では、あれはヨシ、これはダメ、正直、何が何だかわからぬまま、支援制度等の複雑さも相まって時間だけ過ぎ去っている。早急な具体施策の実行が求められる中で、空回りの現状にヤキモキしているのは私だけではなかろう。今まさに問われるのは政治手腕であり、与野党が一つになって、この危機を打破する道筋を示し、国家・国民をあげて対処していかなければならない。

5月から6月は、あやめやしょうぶが咲く季節でもある。2001年の5月に他界した義母が好きで、大分市から湯布院に向かう途中にある花菖蒲（はなしょうぶ）で有名な神楽女湖（かぐらめこ）に何度かお連れしたことがある。「いずれが菖蒲（あやめ）、かきつばた」と言われるくらい、あやめとかきつばた、そして、しょうぶの花はよく似ていて見分けがつかない。この言葉、いずれ劣らぬ美人が二人いるときに使っていたそうだが、最近はいずれも優劣がつけ難いほど、素晴らしいものを例えて使う言葉にもなっているという。

その真逆が新型コロナウイルスの出現。新型コロナウイルスの症状は、風邪やインフルエンザの症状、そして花粉症の症状にも似ているという。感染の拡大とともに、いろんな情報が発信され、多くの国民の意識改革にもつながっていると思う反面、情報が錯綜し困惑していることも事実。感染者が増える中で、お医者様もその対応に苦慮していると聞く。感染拡大とPCR検査、陽性者の隔離など、さまざまな事象への対処が求められ、今のままでは医療崩壊…、その言葉に戦慄さえ覚える。

私たち基幹労連には、病院連絡会の仲間たちをはじめ、ご家族にも多くの医療従事者・関係者がいる。緊迫した状況の中で過酷な対応に追われ、心身ともに疲労がたまっていることを思うと、心からの感謝とともに、「あなたが倒れないで…」と届かぬ声を張りあげたい気持ち、そして、仲間として、その姿に誇りを抱かずにはいられない。

どんなに医療機器や防護服等が増産されようとも、こうした方々の力がなければ医療現場は立ち行かない。あらためて、人の偉大さに感じ入るとともに、難しいことはわかってはいるが、どうか自らの体調管理にも十分留意をお願いしたい。

この数週間、WEB会議での対応やメール・ラインでのやり取りが多くなった。言葉の大切さは重々承知しているが、文字による連絡とそのありがたみを改めて感じる今日この頃でもある。言葉にできないことや、文字の奥にある思いが伝わることのうれしさ、文字でなければ言えないこと、なんか、考えられないくらい「ありがとう」の言葉を綴った気がする。そういえばK西次長に「ありがとう」、なんて言ったのはいつだっただろうか（笑）。

見えない感染リスクと闘う医療従事者・関係者、どうしても止められない操業や対面業務に従事されている方々、そして在宅勤務をはじめ、子供の世話やお年寄りの介護など、感染拡大防止に努力をされている、すべての皆さんに心からのエールを送る。

「我が身を守り、家族を守り、仲間を守る。そして働く職場を守る。」このことは、好循環運動の基本である。新型コロナウイルスの感染拡大とその動きに翻弄されることなく、『ご安全に』の言葉に込めた思いを今一度振り返り、安全・衛生活動の再強化も願う。ひとり一人の意識と行動で、この難局を乗り切ろう。

義母が好きだった花しょうぶ、その花言葉は「嬉しい知らせ」。早くみんなのもとに、そんな言葉が届きますように。

ご安全に

2020年5月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一